

平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	石畳舗装整備事業		
予 算 額	85, 000千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	調整管理課(222－3568)		
〔事業実施に至る経過・背景など〕 風情を感じさせる趣のある石畳舗装が、通行車両等の影響から著しく損傷している。通行に危険があるとともに、点在する補修（応急）跡が著しく景観を損ねていることから、これらの石畳舗装を耐久性の高い工法により修繕し、京都らしい景観を確保するとともに、観光客を含む歩行者等にとって快適な歩行空間を確保することで観光都市・京都の発展に寄与するものである。 〔事業概要〕 実施箇所については、多くの観光客が訪れ、特に景観への配慮が必要である地区及びその周辺にある石畳舗装の補修の実施を予定している。 <u>平成23年度については、東大路通から八坂の塔を仰ぐ石畳の道として知られ産寧坂伝統的建造物群保存地区内にある市道八坂通（500㎡）と紅柄格子のお茶屋が軒を連ね、白川の流れと相俟って風情のある祇園新橋伝統的建造物群保存地区内にある市道新橋通（350㎡）他の実施を予定している。</u>			
〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕			

石畳舗装整備事業 <市>八坂通



石畳舗装整備事業 <市>新橋通



平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	京都御苑周辺道路の歩行空間改善事業		
予 算 額	3, 500千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	調整管理課(222－3568)		
〔事業実施に至る経過・背景など〕 今出川通, 烏丸通, 丸太町通の京都御苑側の歩道については, 歩行者と自転車との接触事故や御苑側水路への転落事故の危険性が高く, 特に烏丸今出川のバス停では, バス待ちの人と通行する人が輻輳している状況であり, これまでから改善が求められてきた。 〔事業概要〕 このような状況を改善するため, <u>転落防止柵の設置やバス停, 横断歩道部におけるデッキ他の設置を行う。また, 当該区間が京都御苑に隣接するため, 環境・景観に配慮した, 間伐材を利用した構造とする。</u> 平成23年度については, 最も危険性が高い, <u>烏丸今出川バス停付近</u>について実施する。			
〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕			

京都御苑周辺箇所図

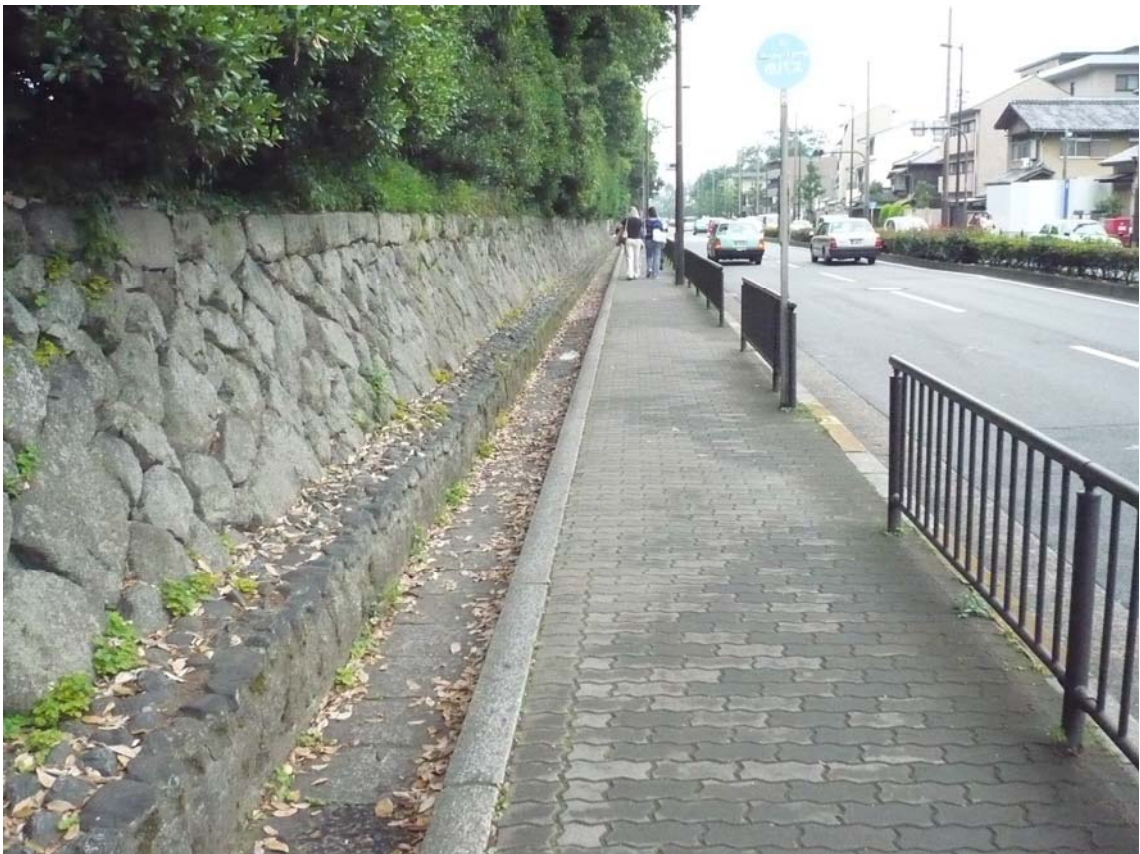
S=1:5000



(凡例)

■■■■ 対策予定箇所

— 横断歩道

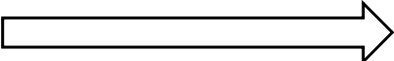
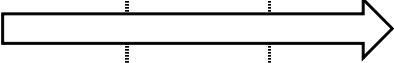
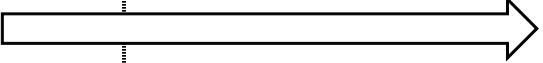


平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	認定路線網図提供システムの構築						
予 算 額	4, 500千円	新規・継続の別	新 規				
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠				
担 当 課	道路明示課(222－3566)						
【事業実施に至る経過・背景など】 京都市では現在、道路法等に規定される各種申請（道路占有，開発許可，建築確認申請等）の手続きや不動産取引，道路が破損等した際の管理者の特定に必要な市内道路の認定状況の有無について，市民や事業者から照会があった場合，電話等による問合せには，原則として対応しておらず，建設局道路明示課及び各土木事務所窓口での来所調査をお願いしてきた。 【事業概要】 市民や事業者に不便をお掛けしている状況を改善するため，今後は，道路や里道・水路の維持管理のための地理情報システムである，既存の「京都市公共物G I S」の認定道路に関する路線網図データを加工及び変換して，<u>認定道路の経路及び名称に関する情報データを作成するとともに，その情報をホームページ上で公開し，利便性向上を図ることとする。</u> <u>平成23年度中に，認定道路の経路及び名称に関する情報を集積した「認定路線網図提供システム」を構築し，平成24年度当初からの運用開始に向けて取り組む。</u> (実施スケジュール参照)							
【参 考（他都市の状況・事業効果など）】 政令指定都市の中では，同趣旨のシステムを既に10都市で導入済み。 (各政令指定都市におけるホームページ上の認定道路図公開状況) <table><tr><td>公開している都市</td><td>札幌・仙台・さいたま・横浜・川崎・新潟市・名古屋・堺・広島・福岡</td></tr><tr><td>公開していない都市</td><td>千葉・相模原・静岡・浜松・大阪・神戸・岡山・北九州</td></tr></table>				公開している都市	札幌・仙台・さいたま・横浜・川崎・新潟市・名古屋・堺・広島・福岡	公開していない都市	千葉・相模原・静岡・浜松・大阪・神戸・岡山・北九州
公開している都市	札幌・仙台・さいたま・横浜・川崎・新潟市・名古屋・堺・広島・福岡						
公開していない都市	千葉・相模原・静岡・浜松・大阪・神戸・岡山・北九州						

実施スケジュール

年度	23年度			23年度			
	4月～8月			9月	10月	11月	12月
内容							
	事前調査			業者 契約	計画 ・準備	システム設計	
年度	23年度			24年度			
	1月	2月	3月	4月	5月～3月		
内容							
	システム構築		システム 動作テ スト等	運用の 開始	維持管理 データ更新 (7月・10月・1月 3回/年)		

平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	放置自転車対策の強化及び充実		
予 算 額	75, 000千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	自転車政策課(222－3565)		
○撤去自転車保管所の整備及び日・祝日の開所 〔事業実施に至る経過・背景など〕 放置自転車の撤去については、平成22年5月から土曜日においても恒常的に実施している。撤去した自転車は、撤去当日又は翌日に引き取られる事が多いものの、返還業務は、月曜日から土曜日までの実施だった。 〔事業概要〕 <u>日・祝日においても保管所を開所し、返還業務を行う</u>ことにより、更なる市民サービスと返還率の向上を図る。 また、府市協調の一環として京都府から無償で提供を受けた「<u>くいな橋保管所</u>」を<u>拡張整備</u>し、保管所機能の増強を図る。 ○撤去警告看板リニューアル 〔事業実施に至る経過・背景など〕 撤去警告看板に対しては、これまでからデザインなど景観へ配慮したものにしてほしいという要望が寄せられていた。 一方、京都市未来まちづくり100人委員会の部会である「京都景観フォーラム」において、景観に配慮した撤去警告看板のデザインについての議論が行われ、本市にデザイン案の提案がなされた。 〔事業概要〕 提案を受けたデザイン案を基本とし、市内全域の撤去警告看板のリニューアルを行う。 景観行政を重要な施策として位置付けている本市では、規制看板である撤去警告看板についても景観への配慮といった観点を取り入れることにより、美しい町並みを保持するとともに、今後の自転車施策の更なる発展につなげていきたい。 〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕			

平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	無電柱化等事業		
予 算 額	436, 000千円	新規・継続の別	継 続
	上七軒通 127, 000 千円 銀閣寺道 6, 000 千円 愛宕街道 10, 000 千円 渡月橋南詰 6, 000 千円 小川通 6, 000 千円 河原町通 281, 000 千円	未来まちづくり推進枠・局配分枠等の別	未来まちづくり推進枠(景観系) 投資枠(幹線系)
担 当 課	道路環境整備課 (222－3570)		
[事業実施に至る経過・背景など] 京都市では、安全で快適な歩行空間の確保、災害時の避難・輸送経路の確保、情報通信ネットワークの信頼性の向上、京都らしい景観の保全・再生などを目的として、伝統的な町並みを有する地域と災害時の輸送経路となる幹線道路を中心に、電線類の地中化を推進している。			
[事業概要] 平成23年度の整備			
◎上七軒通（市道 翔鸞緯7号線）：投資枠 継続			
上七軒通を含むエリアは、京都で最も歴史の古い花街で、北野天満宮の門前町の賑わいと芸能文化の発展に寄与し、優雅で落ち着いたきのある町並みを形成している。京都市では、平成13年8月に、上七軒通を含むエリアを「上京北野界わい景観整備地区」に指定し、平成20年度から無電柱化及び舗装や照明灯の美装化を実施している。平成21年11月には「北野上七軒界わい地区」として歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画の認定を受けた。			
○ 事業区間：上京区毘沙門町（上七軒交差点）～社家長屋町（北野天満宮東門）			
○ 道路延長：510m			
○ 電線共同溝延長：310m			
○ 施行年度：平成20年度～平成24年度			
○ 今後のスケジュール（予定）			
・平成23年度 石畳風アスファルト舗装及び照明灯等工事 （舗装美装化延長510m）			
・平成24年度 周辺関連工事等			

◎銀閣寺道（府道 銀閣寺宇多野線）：未来まちづくり推進枠 **継続**

本路線は、本市市街地を東西に横断する主要な幹線道路である今出川通の白川通交差点から世界文化遺産の慈照寺（銀閣寺）を結ぶ道路で、周辺には多くの観光施設を有し、季節を問わず多くの市民・観光客が散策している。また、沿道からは大文字山の送り火を臨むことができ、眺望景観上も重要な路線である。

- 事業区間：左京区浄土寺東田町（白川通交差点）～銀閣寺町（銀閣寺門前）
- 道路延長：５５０ｍ
- 電線共同溝延長：９００ｍ
- 施行年度：平成２１年度～平成２７年度
- 今後のスケジュール（予定）
 - ・平成２３年度 橋りょう部分手法検討調査
 - ・平成２４年度以降 電線共同溝本体工事、橋りょう部分詳細設計

◎愛宕街道（府道 京都日吉美山線）：未来まちづくり推進枠 **新規**

本路線は、江戸時代から愛宕山の頂にある愛宕神社の門前町として賑わった昔の町並みを残し、五山送り火の一つ鳥居形を有する「嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区」を東西に横断する路線であり、化野念仏寺、愛宕念仏寺への参道としても賑っている。

- 事業区間：右京区嵯峨鳥居本六反町（嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区東端）～嵯峨鳥居本仙翁町（化野念仏寺前）
- 道路延長：２５０ｍ
- 電線共同溝延長：２５０ｍ
- 施行年度：平成２３年度～平成２４年度
- 今後のスケジュール（予定）
 - ・平成２３年度 電線共同溝詳細設計
 - ・平成２４年度 電線共同溝本体工事

◎渡月橋南詰（府道 宇多野嵐山山田線他）：未来まちづくり推進枠 **新規**

当該箇所は、本市有数の観光地である嵯峨嵐山の渡月橋（渡月小橋）の南詰に位置し、背景には智福山法輪寺（嵯峨虚空蔵）を有する名勝嵐山の山並み（嵐山歴史的風土特別保存地区）を臨む景観を有している。

- 事業区間：西京区嵐山中尾下町
- 道路延長：７０ｍ
- 電線共同溝延長：７０ｍ
- 施行年度：平成２３年度～平成２４年度
- 今後のスケジュール（予定）
 - ・平成２３年度 電線共同溝予備設計
 - ・平成２４年度 電線共同溝詳細設計、本体工事

◎小川通（市道 油小路通）：未来まちづくり推進枠 **新規**

本路線は、裏千家、表千家など茶道家や、寺社、織屋、商家の門構えが地域固有の町並みを構成し、他では見られない風雅な景観を有する「上京小川歴史的景観保全修景地区」内にあり、周辺に重要な史跡等が集中している箇所である。

- 事業区間：上京区禅昌院町（上御霊前通）～宝鏡院東町（寺之内通）
- 道路延長：250m
- 電線共同溝延長：250m
- 施行年度：平成23年度～平成27年度
- 今後のスケジュール（予定）
 - ・平成23年度 電線共同溝予備設計
 - ・平成24年度以降 電線共同溝詳細設計、本体工事、周辺関連工事等

◎河原町通（府道 下鴨京都停車場線）：投資枠 **継続**

本路線は、本市中心部を南北に縦断する主要な幹線道路であり、特に四条通から御池通までは京都市内でも有数の繁華街として賑いを見せている。

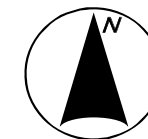
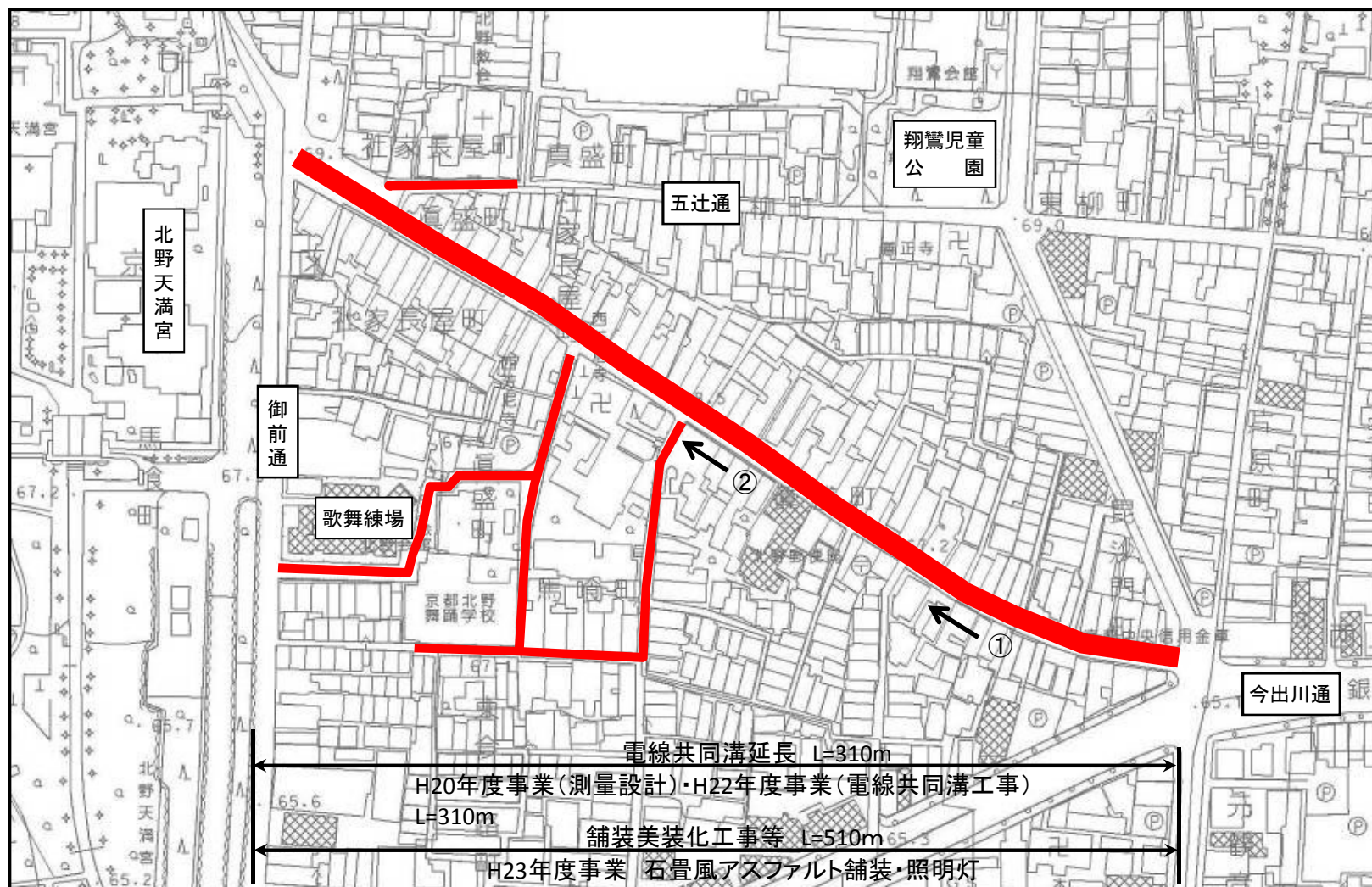
また、路線全体としては、沿道に京都駅、京都市役所、京都府立医科大学付属病院等重要な施設が存在することから、緊急時の輸送経路としても重要な路線の一つである。

- 事業区間：中京区下丸屋町（御池通）～恵比寿町（三条通）
- 道路延長：200m
- 電線共同溝延長：400m
- 施行年度：平成21年度～平成23年度
- 今後のスケジュール（予定）
 - ・平成23年度 電線共同溝本体工事

[参 考（他都市の状況・事業効果など）]

路 線 名 上七軒通（市道 翔鸞緯 7 号線）

箇 所 図



路 線 名

上七軒通（市道 翔鷲緯7号線）

①



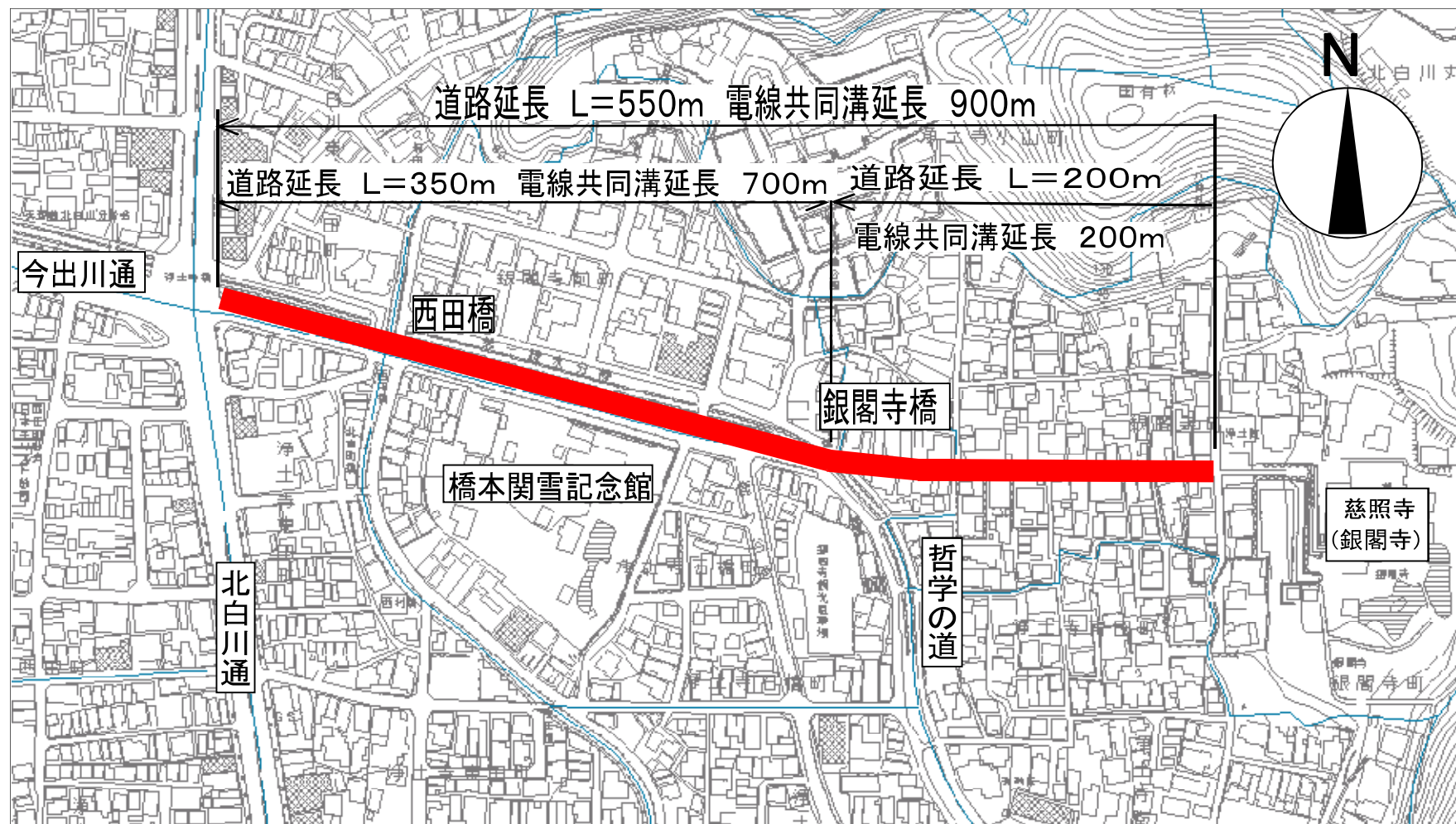
②



路線名

銀閣寺道（府道 銀閣寺宇多野線）

箇所図



路 線 名

銀閣寺道(府道 銀閣寺宇多野線)

① 今出川白川交差点より東



② 銀閣寺橋より東



路 線 名 愛宕街道(府道 京都日吉美山線)

箇 所 図



路 線 名

愛宕街道(府道 京都日吉美山線)

① 南東方向



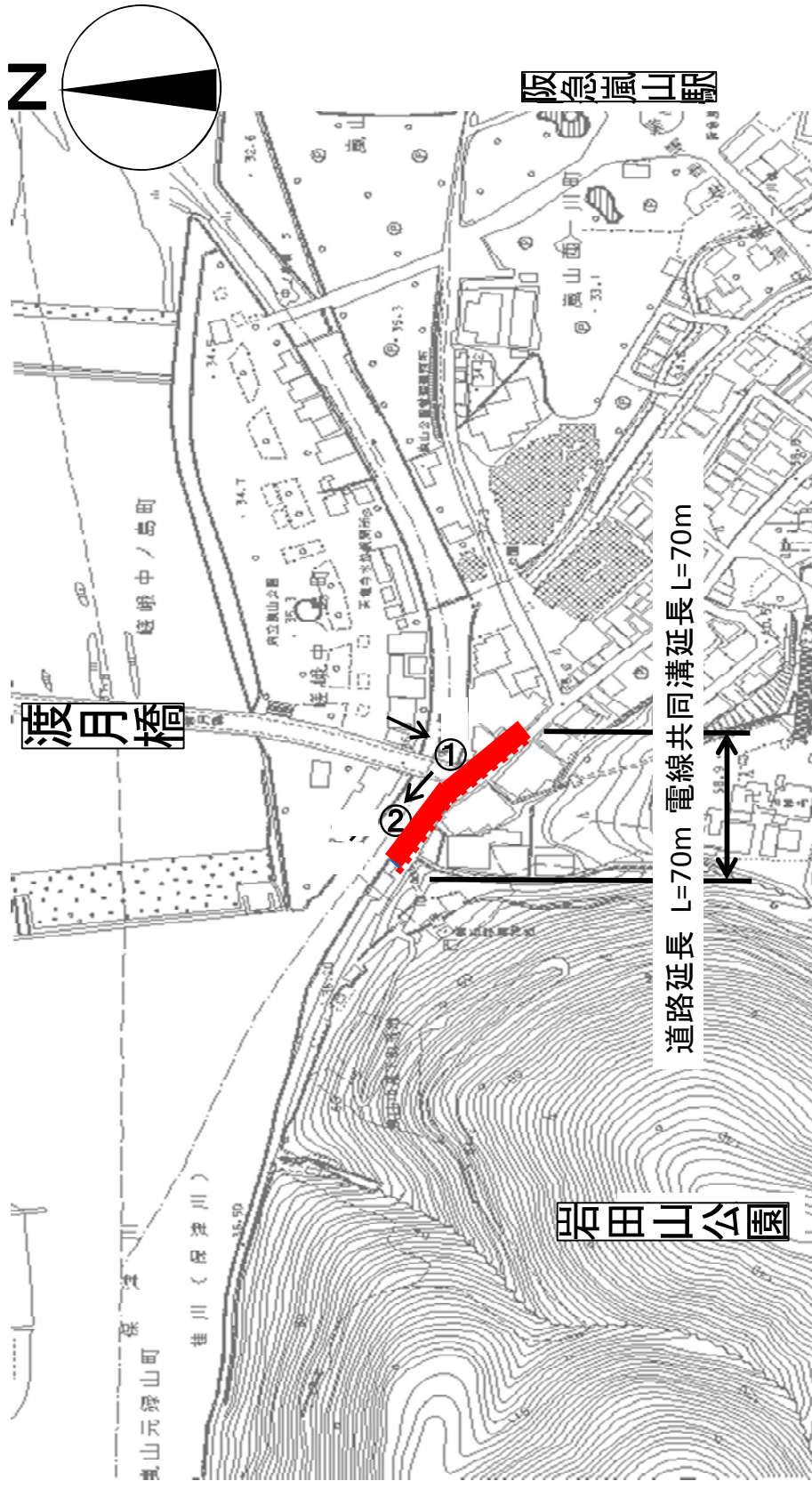
② 北西方向



箇所図

路線名 渡月橋南詰(府道 宇多野嵐山山田線他)

路 線



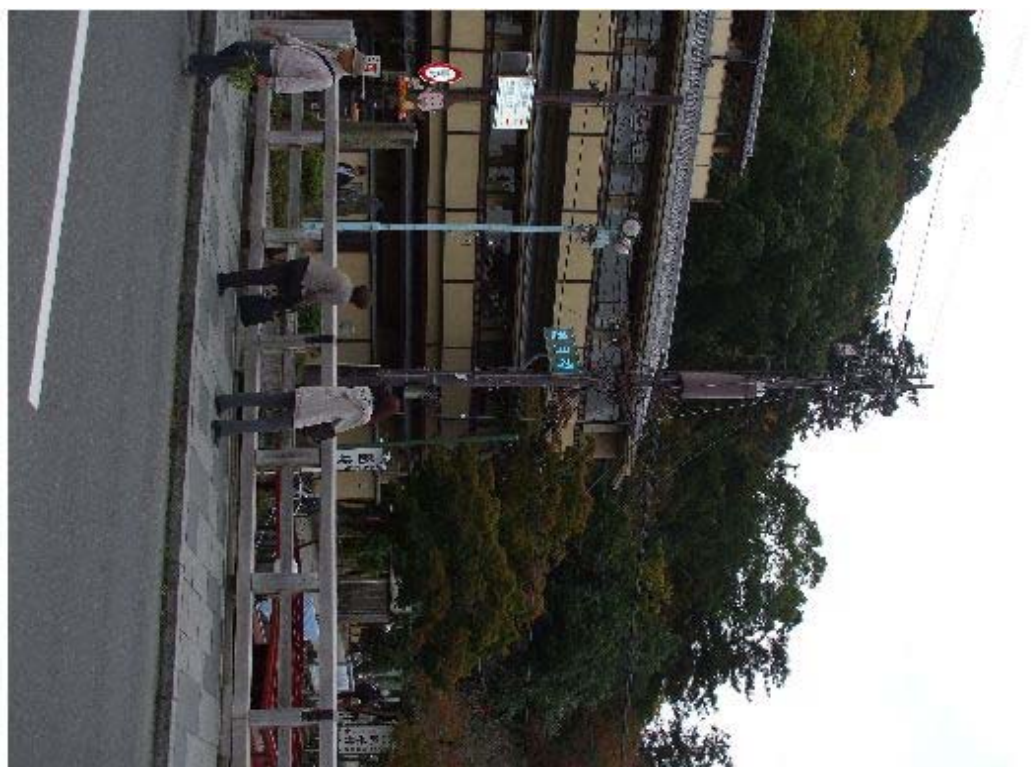
路 線 名

渡月橋南詰(府道 宇多野嵐山山田線他)

①橋から南端方向



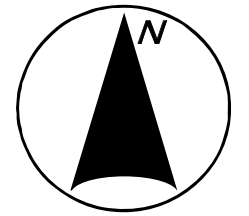
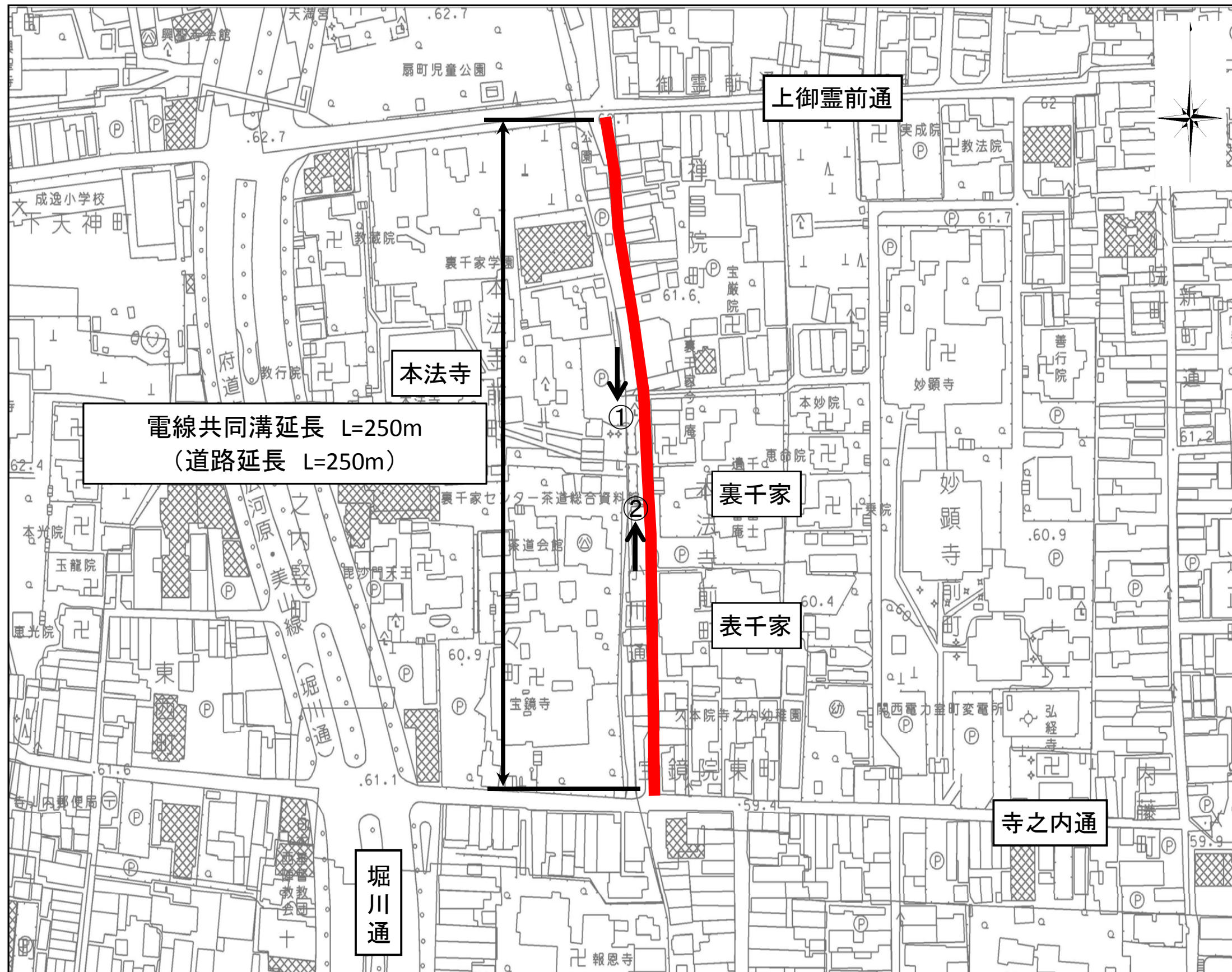
②橋から渡月橋南西方向



路 線 名

小川通（市道 油小路通）

箇 所 図



路 線 名

小川通（市道 油小路通）

①



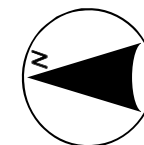
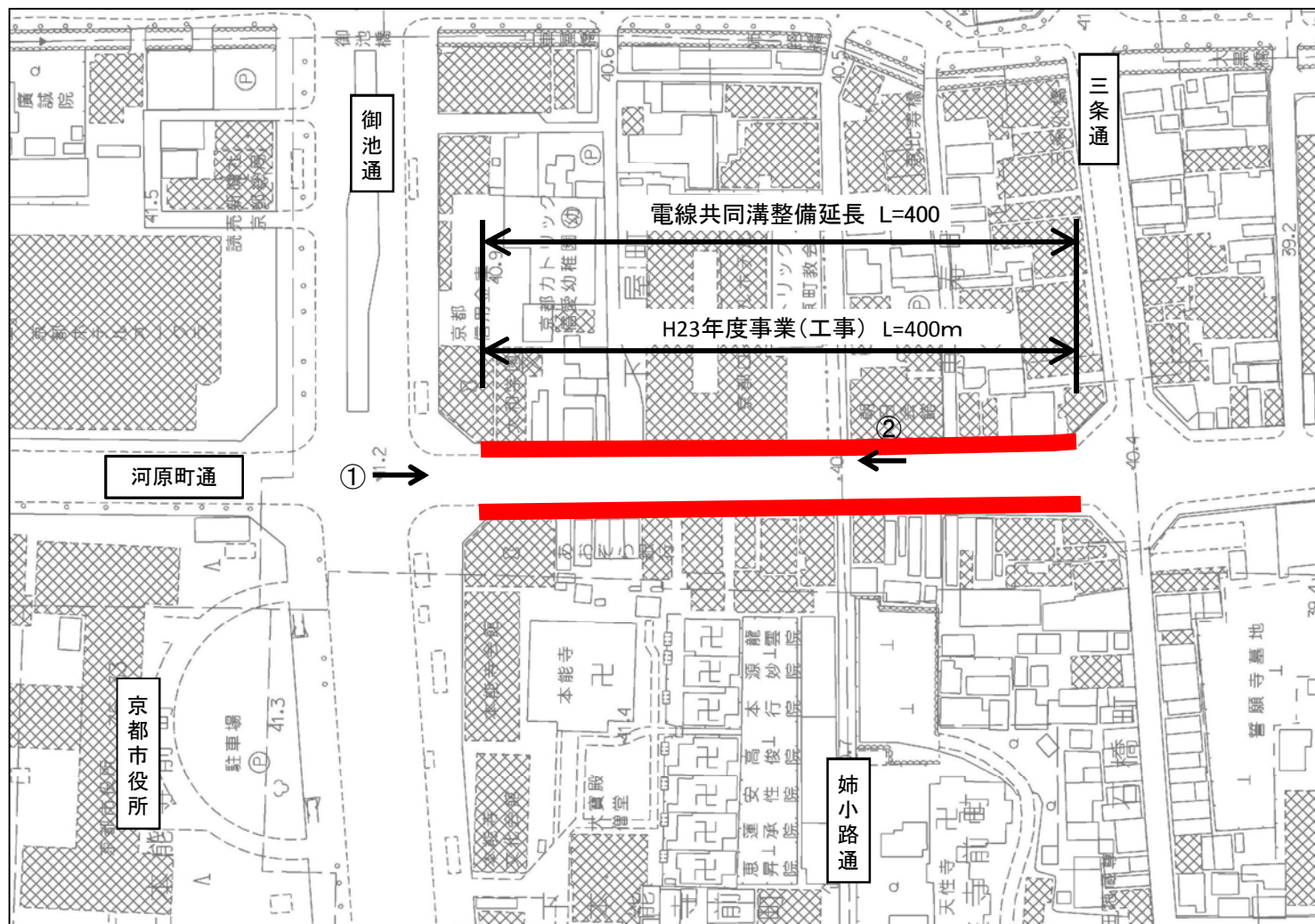
②



路 線 名

河原町通（府道 下鴨京都停車場線）

箇 所 図



路 線 名

河原町通（府道 下鴨京都停車場線）

①



②



平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	梅小路公園の再整備		
予 算 額	39, 500千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	緑政課(222－3589)		
〔事業実施に至る経過・背景など〕 梅小路公園は、平成7年に開園し、市民に親しまれている緑豊かな公園である。民間事業者から公園施設として、平成20年7月に水族館、平成21年2月に鉄道博物館設置の提案を受け、京都市では、平成21年6月に「梅小路公園再整備の方向性(案)」の中で、3つの基本理念(①「地域活性化の核」となる賑わい・交流の場の創出、②多様な「いのちの輝き・つながり」を学ぶ都心のオアシスの充実、③京都力を代表する「文化」を継承・発展する拠点の創出)と6つの基本方針を定めた。 梅小路公園の総合公園としての機能の充実を図るに当たっては、可能な限り民間活力の導入により行うこと(水族館や鉄道博物館等は民間事業者が整備)とし、その他の公園施設の一部について京都市が整備を行う。 〔事業概要〕 梅小路公園再整備の基本方針の一つである防災機能の向上のため、<u>防災トイレ(マンホールトイレ)及び避難誘導等に資する放送設備の整備を行う。</u>			
〔参 考(他都市の状況・事業効果など)〕			

平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	緑視環境向上プロジェクト						
予 算 額	81,000千円 桜景観創造プロジェクト 10,000 千円 紅葉街路樹二段階剪定 49,000 千円 都市緑化事業 道路の森づくり 16,000 千円 公園緑地の植栽充実プロジェクト 6,000 千円	新規・継続の別	新規				
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠				
担 当 課	緑政課(222－3589)						
[事業実施に至る経過・背景など] 平成22年3月に策定した「京都市緑の基本計画」を推進するため、更なる「緑視環境の向上」を目指し、次の事業に取り組む。							
[事業概要] ○桜景観創造プロジェクト 市民や観光客の目に触れる機会の多い桜並木（街路樹）の保全を図るため、安全確保と沿道景観向上の観点から優先順位を定め、 <u>寿命を迎えるサクラ（ソメイヨシノ）の更新</u> を行う。 計画策定：更新基本計画策定 市民周知：老朽木の更新に向け広く周知 地元調整：伐採、更新等に関して、沿道・周辺住民等との調整 更新作業：地元調整が整うサクラの更新作業（約15～30本）							
○紅葉街路樹二段階剪定 紅葉する街路樹については、概ね隔年剪定を実施しているが、楽しく歩けるまちなみ景観づくりの取組として、 <u>剪定対象木について平成21年度から部分的に試行してきた「二段階剪定」（紅葉前に軽剪定を行い、紅葉後に残りを剪定するもの）について、その対象エリアを大幅に拡大して実施する。</u>							
<table><tr><td>対 象 路 線</td><td>内 容</td></tr><tr><td>北大路通、西大路通、十条通 他</td><td>イチョウ、トウカエデ等 約10,000本</td></tr></table>				対 象 路 線	内 容	北大路通、西大路通、十条通 他	イチョウ、トウカエデ等 約10,000本
対 象 路 線	内 容						
北大路通、西大路通、十条通 他	イチョウ、トウカエデ等 約10,000本						

○都市緑化事業（街路樹整備～道路の森づくり～）

都市緑化の推進を図り、「環境モデル都市・京都」にふさわしい街路樹に被われた「道路の森づくり」を目指し、平成21年度から実施している、低木植栽のみとなっている道路の中央分離帯に新たに高木を植栽する取組を推進する。

区 間	区間長(km)	内 容
御池通（天神川～西大路通間）	1.4	サルスベリ50本

○公園緑地の植栽充実プロジェクト

公園内のオープンスペース（順次撤去を進めているちびっこプールの跡地など）に高木（ハナミズキ、サクラ）等の植樹を行い、公園利用者に憩いと安らぎを提供する（4～8箇所程度の公園で実施）。

[参 考（他都市の状況・事業効果など）]

平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	市民公募型緑化推進事業 (緑視環境向上プロジェクトの一部)		
予 算 額	30,000千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	緑政課(222－3589)		
[事業実施に至る経過・背景など] 道路、河川、公園、駅前広場、学校、公共建築物等において、新しく緑を増やしてほしいと感じている市民意見及び密集市街地等における公園の候補地や小規模な緑化が可能な未利用地の情報等を公募し、市民との協働により緑化を行うことにより、良好な都市景観の形成及び防災機能の向上を図るとともに、緑を核にした地域コミュニティの活性化につなげていく。			
[事業概要] 市民公募による緑化を推進するため、次の取組を実施する。 ・市民意見の募集 ・公募内容の審査、採択 ・現地調査・測量、地元・関係機関等協議 ・設計、工事 ○ 募集対象となる施設等 (1)公有地 道路、河川、公園、駅前広場、学校、公共建築物等 (2)民有地 寄付や一定期間借地が可能な公道に面した未利用地 ○ 募集対象となる緑化事業 (1)地域のシンボルとなる植栽 (2)街路樹、公園樹等の植栽 (3)公共建築物の壁面緑化、生け垣設置等 (4)借地型公園 (5)まちなかスポットガーデン（モデルとなる地域の坪庭） (6)まちなみ緑化（沿道の軒下の鉢植え、プランター等の設置）			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

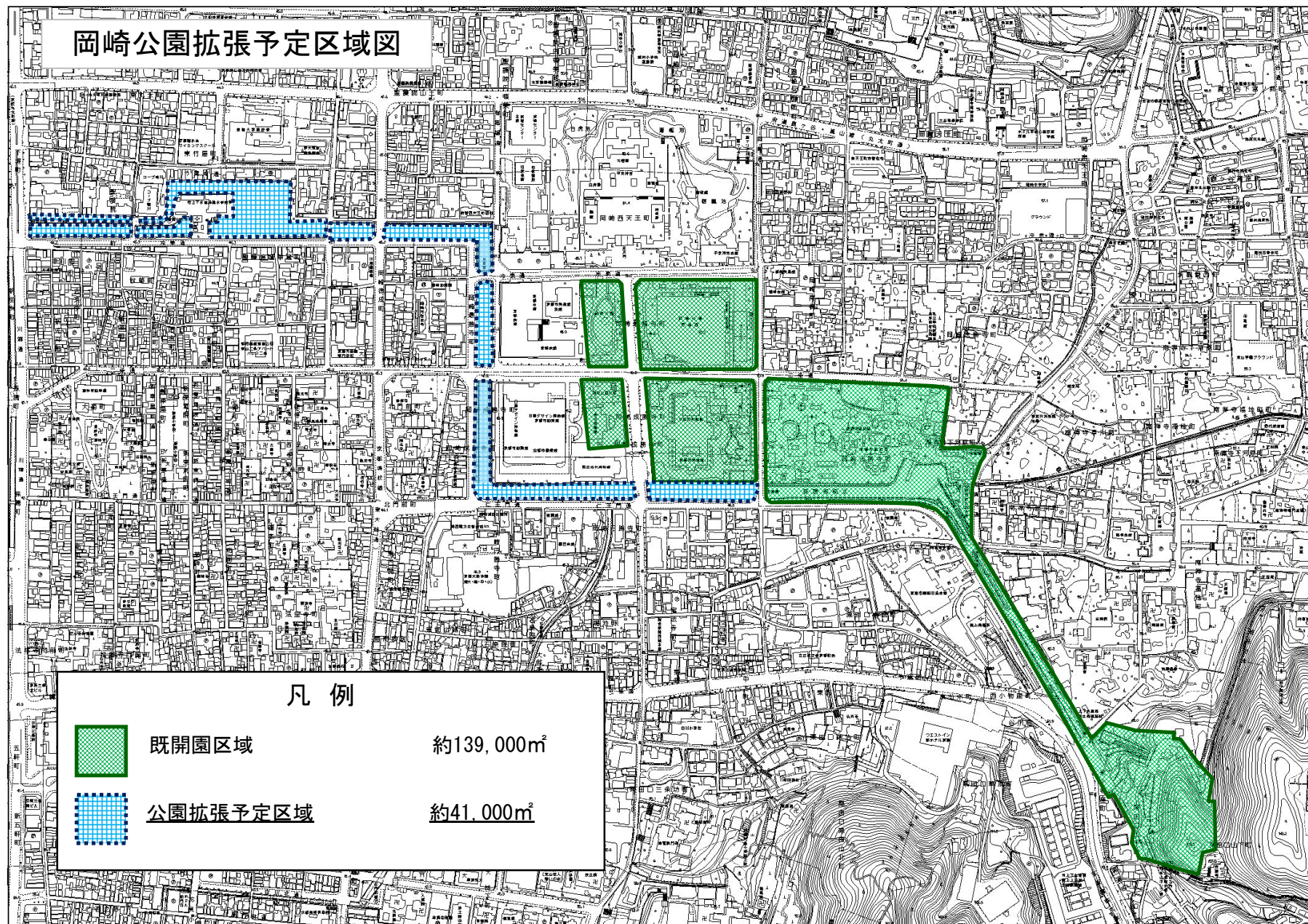
事務事業名	新十 ^{あいふか} 条相深公園整備事業		
予 算 額	432, 000千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	緑政課（222－3589）		
〔事業実施に至る経過・背景など〕 本市では、「京都市緑の基本計画」に掲げる市民1人当たりの公園面積を10㎡とすることを目指し、様々な取組を進めている。その中で、街区公園は、市民にとって最も身近な公園であり、地域コミュニティの核となる重要な施設である。 当該地は、公園が不足し、地元からも設置を要望され、新十条通の上部利用計画においても公園整備が位置付けられていたものである。			
〔事業概要〕 遊具や休憩のための施設等を配置した街区公園として新たに整備を行う。 平成23年度は、先行買収した用地の買戻しを行い、測量及び実施設計を行う。 ・場所：伏見区深草相深町 ・整備面積：1, 600㎡			
〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕			

平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	岡崎地域活性化推進事業(公園区域の拡張)		
予 算 額	7, 600千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	緑政課(222－3589)		
〔事業実施に至る経過・背景など〕 平成22年度中に策定する岡崎地域活性化ビジョンに基づき、<u>京都市美術館南側から鴨川に至る疏水及び緑道を公園区域に編入し、その区域を含めて一体的に市民が散策・回遊できる公園とする</u>ことにより、「京都市緑の基本計画」に掲げた「拠点となる緑」を充実させる。 〔事業概要〕 岡崎公園の琵琶湖疏水慶流橋以西の区域を公園区域に編入し、既存の公園区域を拡張するため、測量を実施する。			
〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕			

岡崎公園拡張予定区域図



平成23年度 京都市予算案 事業概要

建設局

事務事業名	高瀬川再生プロジェクト		
予 算 額	15, 000千円	新規・継続の別	新規
		未来まちづくり推進枠・局配分枠の別	未来まちづくり推進枠
担 当 課	河川整備課(222－3591)		
〔事業実施に至る経過・背景など〕 高瀬川は、江戸時代初期に角倉了以によって、京都の中心部と伏見を結ぶために物流用に開削された運河であり、開削から大正9年までの約300年間、京都・伏見間の水運に用いられた。 現在の高瀬川は、石積護岸の至る所で損傷や老朽化に伴う漏水が発生しており、夏季においては干上がって悪臭を発生させる等の問題が生じている。 このため、将来にわたって、高瀬川を保全していくには、抜本的な修復を行い、常に一定水量を確保することが必要である。 〔事業概要〕 漏水防止及び護岸の崩壊などを予防するため、<u>調査により著しい損傷等が確認できる取水口から五条通までの区間を第一期補修工事として実施する。平成23年度は、この区間のうち、取水口から四条通までの詳細設計を行う。</u>			
〔参 考（他都市の状況・事業効果など）〕			

